

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和4年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-		
重点項目	学習活動	
重点課題	基礎学力の定着と全教員による公開授業の実施	
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>ICTの活用が進んだり、互見授業で情報を共有したりして、分かりやすい授業に向けて多くの取り組みが行われている。各教科・科目の担当者は生徒の実態を踏まえながら、指導方法の工夫・改善をさらに進めて分かりやすい授業の推進を図ることが求められる。また、生徒に自ら学習計画を立てさせ粘り強く実行し、自身の学習を評価(チェック・分析)し、次の学習に生かすことができる(改善)調整力を身に付けさせることも求められる。</li><li>公開授業をすることがある程度定着してきているが、全員が公開授業を実施できていない。</li><li>昨年度の基礎力診断テストにおいて、義務教育範囲の学力が未定着であるとされる生徒(Dゾーン)が約30%(1月の基礎力診断テストで1学年37.0%、2学年25.5%)を占め、その中でも最低レベルのD3ゾーンに1学年4.5%、2学年6.0%いる状況であった。Dゾーン、特にD3ゾーンの生徒は基礎的な学力が不足していることから、授業について内容を十分理解できないことが考えられる。中学校までの基礎的な学力を確実に身に付けさせる必要がある。</li></ul>	
達成目標	基礎力診断テストの実施と分析	全教員が公開授業を年に1度以上実施
	<ul style="list-style-type: none"><li>1年生・2年生全員を対象として定期的に基礎力診断テストを実施する。</li><li>Dゾーン(義務教育範囲未定着)の割合を15%以下とする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>全教員が授業を年に1度以上公開する。</li><li>他の教員の授業を年に1度以上見学する。</li></ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎力診断テストを学期毎に行うことで、学力の定着を観測を行い、小さな目標を増やすことで、継続的な学習習慣を身に付ける。</li><li>朝学習を通して学習時間を確保し、学習習慣の定着と基礎学力の向上を図る。</li><li>D3だった生徒に対して個別指導を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>互見授業の実施率向上のために1・2学期に互見授業週間を設け意識向上を図る。</li><li>できるだけ1年生の授業を公開するように促し、新課程における授業、教材、振り返りのさせ方等の工夫を考察する機会とする。</li><li>ICT機器を活用した授業の工夫を促し、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。</li></ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和4年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-		
重点項目	学校生活	
重点課題	モラルやマナーの向上と危険回避能力の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>SNSには、その普及に伴い、利用マナーやモラルの欠如により事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでいる。県教育委員会との連携によるネットパトロールの報告、情報提供を受け、生徒がトラブルに巻き込まれることの未然防止に努めている。しかし、安易にインスタグラムやツイッターに写真や動画を挙げてしまうことが見受けられ、指導を必要とすることがある。携帯電話使用におけるモラルやマナーの教育とともに、生徒の危険回避能力の向上に努めていかなければならない。</li><li>交通事故件数は、一昨年度は8件であったが、昨年度は11件発生した。幸い大きな事故は起きていないが、いつ命に関わるような重大事故が起きるか分からず、加害者になることも限らない。常に、命の大切さはもとより、モラル、マナーの意識向上を図り、生徒自らが危機管理の意識を高めていくよう指導していかなければならない。</li></ul>	
達成目標	SNS上の指導件数	交通事故件数
	<ul style="list-style-type: none"><li>年間報告件数 5件以下</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>発生件数(年間 3件)以下</li></ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>集会毎にSNSに関する情報提供</li><li>「心」の教育、モラルとマナーの指導</li><li>「いのちの大切さ」を学ぶ教室の実施</li><li>個別指導</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>各集会毎に交通安全指導</li><li>自転車点検による安全意識の向上</li><li>事故発生時の状況や場所の教室掲示</li><li>校風安全委員による対策等検討会の実施</li><li>交通安全教室の実施(1年生)</li><li>個別指導</li></ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	進路支援	
重点課題	望ましい勤労観・職業観の醸成と生徒の主体性を育む進路指導	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部では、生徒一人一人の能力や適性に合わせた進路指導を目指しているが、進路担当者と生徒との接点がない(担当授業、部活動)等で就職や進学の見学や選考会議で名前を出されても、どのような生徒か把握していない状況がある。</li> <li>・進路指導室には、就職や進学に関する資料があることを生徒には伝えてはいるが、それらを十分に、活用しているとは言い難い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約127名が民間企業への就職を希望している。</li> <li>・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成28年度9人(116/125)、平成29年度4人(139/143)、平成30年度4人(129/133)、令和元年度3人(132/135)、令和2年度0人(111/111)、令和3年度8人(109/117)であった。</li> </ul>
達成目標	3学年生徒の進路指導室延べ利用回数	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)
	1000回以上(一人平均3.9回以上)	新型コロナウイルス影響による求人縮小の影響を考慮 4人未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた進路指導室を目指して、クラスごとに各資料の在りかや調べ方などの説明を行う。</li> <li>・進路希望先を決定する前に、進路指導室に相談に来るように指導する。</li> <li>・3学期に資料の確認、先輩の報告書の確認、進路相談等のための進路指導室利用回数をアンケートで調べる。</li> <li>・生徒用タブレットの有効活用。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各企業が求める人物や適性などをしっかりと、生徒に知らせる。</li> <li>・適性検査を実施して、その結果より本人の適性、能力について考えさせる。</li> <li>・面接時に本人の魅力や考えを十分に伝えられるように指導する。</li> <li>・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。</li> </ul>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	特別活動	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。各行事前にアンケート調査を実施して、代議員による生徒議会も行っているが活動が十分とはいえない。また、コロナ禍で各行事の実施方法などを検討することも重要となってくる。生徒議会を活性化させ、生徒会執行部と各委員会の連携を強化していくことが今後の課題である。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動等への参加は活発で、昨年度末の特別活動加入率(生徒会を含む)は98%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や活動が主体的ではない生徒も一部に見受けられ、部活動退部者は約34名(内8名が部変更)であった。退部者の減少、退部した生徒の転部率を増加させることが課題である。</li> </ul>	
達成目標	主たる行事において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数
	85%以上	40名以内
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代議員を通じて事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努めて新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点も踏まえての活動、および生徒議会の活性化を図る。また、行事ごとにアンケートの実施・集約を行い、満足度を調査する。</li> <li>・各行事における教職員の体制を常に検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。</li> <li>・各集会や生徒会による広報活動を通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の意欲を高める。</li> <li>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い、部活動を変更した生徒数を調べ、関係教職員間で状況を共有する。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

重点項目	PTA活動の活性化	
重点課題	PTA各委員会とPTA行事の活性化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA各委員会では、行事等について積極的な議論が行われている。</li> <li>・今年度より、会長、副会長、監査、各委員会副委員長で毎月執行部会を開催し活発な議論の場とする。</li> <li>・PTA各行事への参加者は少ない現状である。</li> <li>・各委員長、副委員長が中心となり各委員会活動を見直し、活性化を図ろうとしている。</li> <li>・今年度より、PTA総会を土曜日に開催することで、総会の出席率の増加を目指す。</li> </ul>	
達成目標	PTA行事への参加者数	総会の出席者
	前年度より10%増	出席率50%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページにPTAページを開設する。</li> <li>・PTA通信やホームページを活用して、活動内容を発信していく。</li> <li>・一斉メールを利用して、全体での情報共有を推進していく。</li> <li>・各委員から行事参加への働きかけを積極的に行う。</li> <li>・各委員会において委員長、副委員長が中心となり、より各委員会活動が効率的に進められるよう努める。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)